東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2011 年 **2** 月 **25** 日

教友たち

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマドを信じ、そのお方をその目で見ることができ、あるいはその説教を聞く栄誉を受けたムスリムを、教友といいます。教友たちは、啓示が下されるのを目にし、アッラーの使徒のスンナを直接彼ご自身から学びました。このようにして彼らは、教えの真実を最も正しい形で学び、イスラームを最も素晴らしいあり方で体現し、後世への模範となったのでした。

教友たちは、アッラーのご満悦を得るためにその財産や資産、家族や祖国を離れ、移住の困難さに耐えました。彼らはイスラームのために時には命すら犠牲にし、この献身のためアッラーの賞賛を得る誉れに達したのです。崇高なるアッラーは「（イスラームの）先達は、第１は（マッカからの）遷移者と、（遷移者を迎え助けたマディーナの）援助者と、善い行いをなし、かれらに従った者たちである。アッラーはかれらを愛でられ、かれらもまたかれに満悦する。」**(悔悟章第 100 節)** とおおせられ、教友たちに満足されていることを明らかにされています。

預言者ムハンマドも多くのハディースで、教友たちの徳と価値を示されています。このうちの一つは次のようなものです。「私の教友たちに悪い言葉を語らないでください。アッラーに誓っていうが、あなた方のうちの誰かがウフドの山ほどの金を持っていて、それをアッラーの道に用いたとしても、教友たちの気前よさには至らない。その半分にすらも至らない。」

親愛なるムスリムの皆様。教友たちの一部の間で生じたいくつかの衝突は、彼らの現世的な欲望や欲求から生じるものではなく、率直な意見の相違から生じたものです。彼らは、預言者ムハンマドの最も困難な日々にその周りで互いとしっかり結びつきあい、「母も、父もあなたのために捧げます、アッラーの使徒よ。」といい、そのお方を助けようと努力したのです。だから預言者ムハンマドは「教友たちについて、アッラーを恐れなさい。彼らに悪い言葉を使うことを避けなさい。私が去った後、彼らを標的にしないでください。彼らを愛する人は、私をも愛したことになるのです。彼らを憎む人は私をも憎んだことになるのです。彼らを苦しめた人は私をも苦しめたことになるのです。私を苦しめた人は、アッラーに反抗したことになるのです。アッラーは、ご自身に反抗する者に罰を与えられます。」

親愛なるムスリムの皆様。預言者ムハンマドは、なくなったムスリムをその善と共に思い起こすことを求められ、彼らのことを嘆き悲しむこと、そして彼らを悪いことと共に思い起こすこと、侮辱することを禁じられました。

歴史を通してムスリムの多くは、預言者ムハンマドの教友たちを区別することなくその全てを対し尊敬、敬意、愛情をもって思い起こし、彼らを模範としました。だから私たち以前に生きた宗教上の兄弟たち、特に預言者ムハンマドの卓越した教えの友である人々をその善と共に思い起こしましょう。今日のフトバを、預言者ムハンマドの次のハディースで締めくくります。「教友たちは星のようである。そのうちの誰に従っても、あなたは教えへと到達するだろう。」